

月刊
JMITU

オトコカ



6月号

日本金属製造情報通信労働組合大田地域支部
セガ グループ分会 2019年発行

No.414

私達の年金はじつになるっ。

今の生活でも厳しいのに

老後の為に2000万円貯蓄は無理

公的年金の支給不足で、老後30年間に2000万円が必要だという金融庁の審議会報告書が出されました。

自分が年金を受給しているかも秘書に聞かなくては分からない大臣が、その受け取りを拒否するなど大臣に批判が高まっています。

そもそも、20歳から40年間年金の掛け金を払い続け60歳から支給されるといふ制度で定年後の生活は安泰だと思っていたのに、受給年齢を上げ、支給額を下げっていく。

挙句の果てに年金だけでは生活ができないという、明らかに詐欺に近い話です。

政府が報告書の「受け取り拒否」の態度をとり、都合の悪いことを隠ぺいするなどともない事です。拒否したところで年金が足りないという事実は変わりません。

仕事でもそうですが問題が発生した場合、その問題の事実を確認し、問題点を洗い出し対策を打つというのが基本です。政府は貧しい年金の現実を確認せず、100年安心の年金などつくることはできません。年金がこのような問題になってしまったのはあきらかに政策の失敗です。その上10月からは、消費税が増税されます。

今年の参議院選挙でこうした政策を打ち出した政党へ審判を下すべきです。

年功序列

終身雇用が一番

トヨタの経営陣が、終身雇用を維持は無理と言い始め、電気や銀行など大企業で45歳以上対象のピンポイントリストラが行われています。

終身雇用が無くなると、住宅ローンの問題がでます。多くの方が30年などの長期ローンを組んでマイホームを購入しています。

これは終身雇用を前提として長期間にわたって安定的にローンを返済できることが大前提です。失業することはもちろん、成果主義賃金の影響や転職して収入が下がることも住宅ローンの返済に対して

大きなリスクとなります。

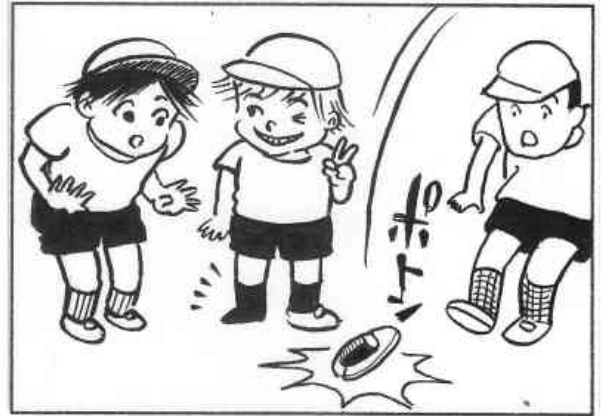
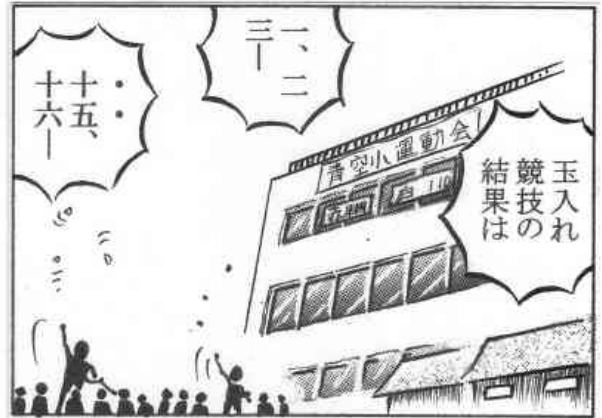
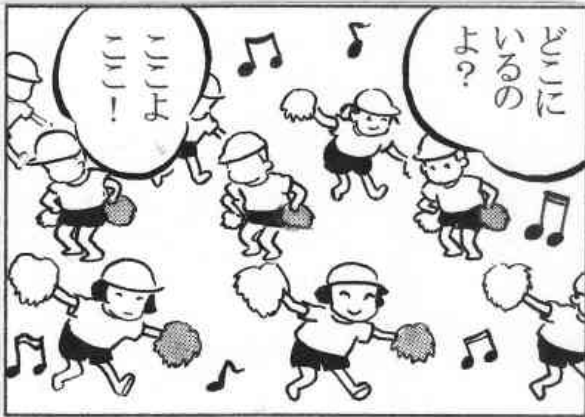
バブル時代の人事課題は、普通以上の能力の人材を集め、8割の社員をやる気満々にし、全員で頑張ろうという体制だと言われています。それを可能にしたのが年功序列と終身雇用で、モチベーション維持の為、特に重要なのが、昇進と待遇を同期でなるべく差をつけられないことでした。

バブル崩壊後企業は、成果主義賃金導入を行いました。成果主義は不景気に対処する為、総額人件費削減の手段となり、同業他社との比較よりも、社員間の差をつけることを志向しました。

その結果、社員間の助け合いがなくなり、すべては個人プレー、評価の基準が曖昧と年功序列の時より、全体のモチベーションは下がってきているのが現実です。

4こま漫画

川崎よしき



シヨートシヨート

ずれ

仙洞田一彦

P氏は肘掛椅子の背凭れに身体を預けて、机の前に立つ部下を見上げて言った。

「君は仕事というのをまるで分っていません。勤続何年になるんですか」

「二十三年」

語尾の方は小さい声になったが、部下ははつきりと言った。聞こえたはずだ。P氏というのは、この管理職のことを陰でいう名前だった。パーフェクト人間のPでもあるが、パウハラのPでもある。前者には揶揄、皮肉が込められていて、後者には恐怖があったが、さげすみもあった。P氏は怒鳴ることをしない。また

胸ぐらをつかんだり、土下座をさせるようなこともしない。部下に問いかける言葉も、極めて静かだった。

「え、二十……何年、えっ、聞こえませんか」

P氏は自分の耳に手を当てて、部下の方にその耳を向けた。このあたりがP氏のいやらしいところだと、部下は思ったがうつむいたままだった。昨日会社を休んだことと、おれの勤続年数と、何の関係があるんだと思った。責められる理由が、昨日の休み以外に思い当たらなかった。休むといったって、手続を踏んで休んだことだ。休暇届にP氏のハンコもあるはずだ。余程P氏の虫の居所が悪かったに違いない。また不運だった。さつき、たまたまP氏がこちら

を見ていたときに、立ち上がって、目が合ってしまったからではないかと思った。

P氏のように完璧な上司はいなかった。P氏は数十人の職場の長であった。管理職の偉い順から並べると、だいたい真ん中に位置する。P氏の年齢は五十代。

P氏は残業が好きだった。裏腹に、他人が休むことが嫌いだ。残業が好きだなんて言っては失礼だ。仕事を完全にこなすために、それだけの時間を掛けていたというべきだ。でも、好きでやっているというのもあるが、ち外れてはいないようだ。

誰一人残っていない職場で仕事をする。だから、いかに自分が唯一の人間であるかを、はつきり知ることができる。

唯一、ただ一人という感覚が大事である。仮に、パーフェクトな人間が何人も同じところにいるら目立たなくなる。ありふれていて価値がなくなる。価値が下がる。これはP氏にとって我慢ならないことだ。でも本当にそうなのか、

P氏に直接聞いたわけではないのでわからない。そんなことを聞けるわけがない。

それに誰もいないから、でかい声で部下をののしることもできる。昼のうちに部下から上がってきた書類に目を通しながら言うのである。

「あのバカ、こんな仕事をやりやがって」

「くそ野郎。仕事のイロハのイも分かってねえ」

言いたい放題である。それが誰もいない部屋に響く。だ

がP氏は、上司として完璧を目指しているので、部下の前では決してこんなはしたない言葉は出さない。最近の管理職は、部下をやたら怒鳴りまくる。人前で怒鳴った方が効果的だからだろう。怒鳴ることによって上司としての優越感に浸っているのかもしれない。だが、P氏にとって怒鳴り散らす管理職は無能にしか見えない。とはいっても、よその職場で常々、彼奴はできない奴だと思っている奴が怒鳴られているのを見たり聞いたりすると、溜飲が下がる。

でもその現場に居合わせた時は、いかにもその上司の方を軽蔑しているように顔をしめる。腹では一緒になってそいつを怒鳴りたいのだが、外面上は、はしたなく怒鳴っ

ている上司を非難するような表情を作るのである。

その表情を見ると怒鳴られている部下は、P氏に救われる思いがするかもしれない。でも、P氏はそんなに単純ではない。自分が「できない奴」と判断したものに対しては、評価を変えない。自分の基準が絶対である。自分の規格にはまらないものは徹底的に攻撃、排除するのだ。だが、P氏の外面を見ている限り、そんな感じは全くない。

しかし、これも目撃した話ではないし、様々な情報を総合して、さらにいろいろ脚色しての話である。今まで一緒に、あるいは部下として仕事をしてきて、特に何も支障がないとすれば、それは幸運だ。幸いにしてP

氏の狭い許容範囲に収まってきたのだ。

これはいまP氏の机の前に立っている部下だけが思ったことではない。部下たちが寄ってたかって、推測、憶測だけでぺちやくちややつているうちに浮かび上がってきたP氏像である。

「あいつはねえ」
会社の帰りに部下たちが安酒場で、安酒を飲んでいるうちに、上司のP氏は、部下の間では「あいつ」になってしまふ。

「あいつはねえ、表向き愛想はいいよ。ところがねえ、相手が自分の基準より一ミリでもずれたら許せねえんだよ」
「一ミリもないぞ」
そう言ったのは、いまP氏の前にいる件の部下だった。

「そうか。そうかもしれないな。でも人間なんてのは、いろいろあるんだよ。いろいろあるから人間なんだよ。それが許せねえんだ、あいつは。他人を認めねえんだよ。だからさ、決まり文句。君は何もわかってない。仕事は何もわかっていないと、全否定。そういう人間で寂しいね」

他の同僚が答えた。会話を思い出した部下は思わずニヤリとした。P氏は見逃さなかった。さすがのP氏も自制を失って思わず怒鳴った。

「何がおかしい」
「何ミリはみ出しました。一ミリ。コンマーミリ」
部下は語尾のトーン上げて聞いた。さらに続けた。
「まるで、何も分かっていないものでして」

組合に入りませんか！

働条件や職場環境ではないで
しょうか。

私たちJMITU（日本金

属製造情報通信労働組合）は、

全国組織の労働組合です。正

社員でなくても、パートやア

ルバイト、派遣社員の方でも

加入できる組合です。

私たち組合は、生活と雇用

に不安のない安心して働ける

職場、誰もが安心して暮らせ

る社会を目指して活動してい

ます。

私達労働者は、さまざまな

問題にぶち当たる事がありま

す。仕事をやめたいと思うこ

ともあるかもしれませぬ。

その原因は、低賃金、長時

間労働、職場の人間関係、成

果主義による低評価などの労

仕事が上手くいかない、

私たちの生活も崩れてしま

ます。働けるだけで幸せでは

ありません。人間らしい生活

であることが大切です。

いま安倍政権は、大企業や

富裕層優遇の政治をしていま

す。大企業は利益重視、株主

優遇の経営をしています。企

業は、働き方改革と言いな

ら労働者を都合よく使い、不

安定雇用や低所得者を増やし

続けています。そのため、労

働者の生活は悪化しています。

労働条件や職場環境の改善

には、会社と交渉するしかあ

りませぬ。しかし、会社と交

渉するには、労働者ひとり

はとても難しいです。会社と
対等に交渉するには組合に加
入するしかありません。

私たち労働組合は、みんな

で要求をつくり、みんなで行

動する組織です。職場の悩み

がある人は、ひとりで抱え込

まずに、私たち労働組合にご

相談ください。労働組合に加

入し、一緒に働きやすい職場

づくりをしませんか。



労働相談、ご意見、ご質問は、下記にお寄せください。

JMITU 本部 TEL 03-5961-5601 : FAX 03-5961-5603

ホームページ <http://www.jmiu.com/>

JMITU 大田地域支部 TEL 03-3734-3502 : FAX 03-3734-3534

ホームページ <http://www6.plala.or.jp/JMIUOOTA/>

セガグループ分会ホームページ <http://jmitusega.chips.jp/>